




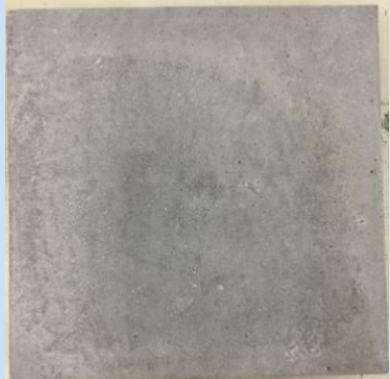
# フローン湿潤面用プライマー



# フローン湿潤面用プライマーとは？




- 水性エポキシ樹脂を主成分とし、専用パウダーと組み合わせることで、湿潤コンクリート・モルタル面に強力に密着します。
- 下地水分や背面水による剥離、フクレの発生を抑制します。
- 当社床材と幅広く密着し、上塗り選択性が豊富です。

従来、湿潤面下地に対して施工する際は、下地が乾燥状態になるよう、降雨後は2日以上乾燥させるなど、十分な養生が必要でしたが、湿潤面に密着し、下地水分による剥離、フクレの抑制効果のある“フローン湿潤面用プライマー”を使用することで、養生の短縮が可能となります。

表面状態	未処理 (表面に水が溜まっている状態)	ゴムレーキによる除去 (薄い水の膜が残った状態)	ウエスにて拭き上げ (濡れ色だが表面の水は無い状態)	乾燥状態
				
塗膜への影響	大	小	ほぼ無し	無し
施工可否	×	×	○	○

- 被塗物表面に水が残る場合、ウエス等で拭き上げてから塗装を行ってください。
- 水が残ったまま“フローン湿潤面用プライマー”を塗布すると、材料が表面の水を含み、硬化後の塗膜強度が低下し、正常な塗膜物性、密着性が得られません。

# 硬化後の塗膜状態について

条件	正常な塗膜: 上塗り可		過剰な水の影響を受けた塗膜: 上塗り不可	
	塗装直後	硬化後	塗装直後	硬化後
塗膜外観				
状態	通常の状態のパウダー色	正常な塗膜を形成し、皮スキで削れない	下地表面の水を含み白化	硬化後の塗膜は強度が不足し、皮スキで削れる

※過剰な水の影響を受け、塗膜強度が低下した場合は、脆弱部を除去し、再度フローン湿潤面用プライマーを塗布してください。

# 使用手順

1. あらかじめ主剤、硬化剤をもみほぐし、一様な状態にする。
2. 主剤、硬化剤を計量、混合し、電動攪拌機で1分間攪拌する。
3. 攪拌しながらパウダーを混合、電動攪拌機で2分間充分に攪拌する。
4. 下地の色が透けないよう、中毛ローラーまたはコテにて塗布する。

※標準使用量(0.3~0.5kg/m<sup>2</sup>)を超えて塗布した場合、割れやピンホールが生じる恐れがありますので、標準使用量を厳守してください。

# 上塗り可能製品

フローン床材		
フローン50、55※	フローンフルトップ※	ハイフローン、水性フロアー
フローンエポローラー※	フローン22※	フローンアクアファースト(遮熱)
ソルエポ90	AUコート	フローンHRプライマー
エポエース	フローンヌルサット	フローンベースエポ
フローンアクアエポ	フローンクイックF	フローンエポパテ

※厚膜、中膜型の床材を施工する際は、ピンホール防止のため、フローン湿潤面用プライマーの上に、必ずフローンパウダーを混合したプライマー(プライマー:フローンパウダー=1:0.5~1)を塗布してください。

# 製品仕様

容量				標準塗装面積
主剤	硬化剤	パウダー	セット	
4kg	4kg	8kg	16kg	0.3~0.5kg/m <sup>2</sup> × 1回塗りで 32~53m <sup>2</sup>

	上塗り可能時間	可使時間
5°C	24~48時間	2時間
23°C	12~24時間	1時間
30°C	6~24時間	30分



# 標準施工仕様

工程	材料名	使用量 (kg/m <sup>2</sup> )	上塗り可能時間 (23°C)
1	素地調整	---	---
2	フローン湿潤面用プライマー	0.3~0.5	12~24時間
3※	フローンプライマーH フローンパウダー	0.15 0.15	2~24時間
4	フローン床材	弊社床材カタログを参照してください。	

※厚膜タイプを施工する場合に施工してください。上塗りする材料により、プライマーは変更可能です。

・製品特性から若干のローラー目、コテ目が残ります。仕上がり感については、事前に塗板等でご確認ください。



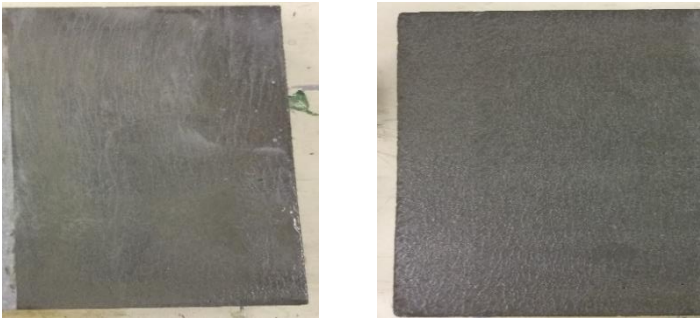
# 施工上の注意事項

1. 旧塗膜、異物付着等の下地処理、若齢コンクリート下地、刷毛引き仕上げのコンクリート面については、当社までご連絡ください。
2. 緻密なコンクリートや強化コンクリート、またアスファルトコンクリートにはフローン湿潤面用プライマーは施工できません。
3. 他社製品を上塗りする場合には、充分テストの上ご使用ください。
4. 下地は、レイトンス、砂、ゴミ、ホコリ等を完全に除去してください。
5. 気温5℃以下、湿度80%以上では施工しないでください。硬化時間、硬化後の塗膜性能は、施工時の温度に大きく左右されます。
6. フローン湿潤面用プライマーは、被塗物表面に多量の水が残ったまま塗布すると、材料が水を含み、硬化した際の塗膜強度が低下しますので、表面の水分を拭き上げてから塗装してください。
7. フローン湿潤面用プライマーをご使用の際は、あらかじめ主剤、硬化剤をもみほぐし、一様な状態にしてから計量、混合を行ってください。
8. フローン湿潤面用プライマーは3成分反応硬化型ですから、可使時間に制限があります。施工時の温度、施工面積、作業人員等を考慮して、無駄の無いよう材料を配合してください。
9. 配合比は重量比で主剤:硬化剤:パウダー=1:1:2ですので、計量には必ずハカリを使用してください。
10. 3成分混合後は可使時間(ポットライフ)内に使い切るようにしてください。可使時間を越えたものを使用すると、塗膜強度低下等の仕上がり不良を生じる恐れがありますので、使用は控えてください。
11. ご使用になる環境を十分に考慮して、厳正な材料と施工方法を決定してください。
12. 厚塗りした場合、塗膜表面に割れやピンホールが発生する恐れがありますので、標準使用量を厳守してください。
13. 施工時は中毒等の事故防止のため、十分に換気し、保護メガネ、手袋等、保護具を着用してください。
14. 直接皮膚に触れないように充分注意してください。もし触れた場合は、ウエス等で十分に拭き取り、中性洗剤で洗ってください。
15. フローン湿潤面用プライマーは、水を希釈剤としているため、凍結する恐れがあります。凍結したものは正常な塗膜が得られないことがあるため、凍結させないように保管してください。
16. 材料の保管、取扱いについては、消防法、労働安全衛生法、その他に基づき、十分な管理をお願いします。
17. 動植物に影響を及ぼす可能性がありますので、施工時および施工後の換気を充分に行ってください。
18. 塗料、塗料容器、塗装具をは置きするときは、産業廃棄物として処理してください。容器、塗装具などを洗浄した廃液は、そのまま地面や排水溝に流すと、環境に悪影響を及ぼす恐れがありますので、排水処理場などの施設に持ち込むか、産廃処理業者に処理を依頼してください。

# Q&A

Q1 湿潤面とはどのような表面状態ですか？	A1 コンクリート・モルタル表面に水は無いが含浸している、濡れ色になっている状態を想定しています。ケット社製高周波水分計HI-520、HI-520-2で含水率を測定した際に、コンクリートレンジの表示値が5%を超えるような、従来は乾燥養生が必要だったコンクリート・モルタル面にも施工出来る製品となります。
Q2 なぜ湿潤面に密着し、フクレ、剥離の抑制になるのですか？	A2 通常のプライマーに比べ、水分を含む下地に対し、密着性に優位性にある樹脂を選定し、専用パウダーを配合することで、下地水分からの影響に対する緩衝層を形成し、フクレ、剥離の発生を抑制します。
Q3 本当にフクレ等の不具合は発生しないのですか？	A3 外部から下地コンクリートに水が供給され続ける等の構造上の問題が発生し、フロン湿潤面用プライマーの層で緩衝しきれない場合、フクレ等の不具合が発生する恐れがあります。
Q4 旧塗膜が残る場合の注意事項はありますか？	A4 旧塗膜が下地にしっかり密着しているか確認し、密着不良部は除去してください。旧塗膜が当社床材の場合は、表面の目荒らしを行うことで密着しますが、ウレタン樹脂系、特にAUコートに対しては剥離しやすいので、充分に目荒らしをしてください。また弾性、軟質タイプの床材につきましては、ワレが発生する恐れがありますので、施工は避けてください。
Q5 既存塗膜が濡れている場合、軽く拭き取って塗布していいですか？	A5 コンクリート表面が濡れている時と同様に、旧塗膜表面の水分はウエス等で拭き上げてから施工してください。
Q6 立面への施工はできますか？	A6 床面への施工を想定している製品になりますが、標準使用量の範囲であれば巾木程度の立面は施工可能ですので、材料を使い分ける必要はありません。
Q7 強化コンクリートへの施工はできますか？	A7 フロン湿潤面用プライマーは強化コンクリート面には密着しません。ライナックス等の研削機で表面の強化層を除去してから施工してください。
Q8 推奨ローラーはありますか？	A8 中毛ローラーを使用し、標準使用量の範囲で塗装してください。短毛ローラーや、長毛ローラーでは作業性の低下や、標準使用量を超過する恐れがございます。

# Q&A

<p>Q9 厨房等の水と油が混在したコンクリート面に使用できますか？</p>	<p>A9 表面の油を洗浄しても油がコンクリートに含侵している場合、フローン湿潤面用プライマーでは密着せず、剥離する恐れがあります。油の含侵しているコンクリート層を除去するか、洗浄、乾燥後に弊社製品の“フローン油面用プライマー”または“フローン水系油面用プライマー”をご使用ください。</p>
<p>Q10 可使時間を超えるとどうなりますか？</p>	<p>A10 経時増粘はあまりなく、作業性への影響はほぼありませんが、可使時間を超えた材料を使用すると塗膜強度が低下する恐れがございます。また攪拌後放置すると材料表面が皮はりしますので、混合後は速やかに使い切ってください。</p>
<p>Q11 不陸調整などの下地調整には使えるのか？</p>	<p>A11 標準使用量の範囲内での使用が可能です。厚塗りするとピンホールや割れが発生する恐れがありますので、表面の凹凸に注意し、材料を選定してください。</p>
<p>Q12 防水材の下塗りに使用できますか？</p>	<p>A12 床材に比べ防水材は柔らかいことから、フクレ発生のリスクが高まりますが、使用することは可能です。ピンホール防止の他、フローン湿潤面用プライマーに直接防水材を塗布した場合、二次密着（水浸漬後の密着性）が悪いため、フローンパウダーを混合したプライマーを塗布してください。</p>
<p>Q13 被塗物表面に水が残った場合、どんな状態になってしまいますか？</p>	<p>A13 被塗物表面に水が残っていた場合、塗装時に材料が水を含んで白化してしまいます。硬化後は塗膜強度が低下しますので、脆弱部を除去してから再度フローン湿潤面用プライマーを塗布してください。</p> <div data-bbox="1047 1025 1742 1339"></div>